

「国際協力カレッジ 2017」事業実施報告書

「国際協力カレッジ 2017」事業実施報告書

目 次

- 1、本事業の目的・目標および実施概要(プログラム内容)
 - 2、参加者アンケート結果
 - 3、出展団体アンケート結果
 - 4、アンケート結果の分析を踏まえた、本事業の目的・目標達成
および今後に向けての提案

および今後に向けての提案

1、本事業の目的・目標および実施概要(プログラム内容)

【本事業の目的および目標】 *業務仕様書より抜粋

「国際協力カレッジ」は、中部地域において国際的な課題に関心を持つ若年層を中心とする人々が国際協力の現場で働く人の声に触れ、考え、共に動き始める場として2006年度より実施しており、本年度で12回目を迎える。この間国際社会においては、2015年9月の国連サミットにおいて「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。2030アジェンダでは「誰一人取り残さない」を理念として、一人ひとりに焦点を当て、開発途上国のみならずあらゆる国々で取り組むことが必要とされている。また民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること(グローバル・パートナーシップ)が求められている。

上記を踏まえ、「国際協力カレッジ2017」は国際協力に関心を有する学生や市民を主なターゲットとして、世界の現状や取り組み、SDGsの達成に向けて活動する団体(民間企業、NGO、自治体や市民団体など)の紹介などを通じ、国際協力の必要性や課題を理解し、参加者一人ひとりが具体的な行動に移すきっかけを提供することを目的として、以下のとおり実施する。



「国際協力カレッジ 2017」事業実施報告書

【本事業の実施概要(プログラム内容)】

- ・日時:2017年12月2日(土)10:00~17:00
- ・会場:JICA中部 なごや地球ひろば
- ・主な対象者:国際協力分野におけるボランティア・インターン・職員に
関心がある、学生・若い世代
- ・参加者数:80名 /定員70名
- ・主催:独立行政法人 国際協力機構中部国際センター(JICA中部)
事務局:特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター



Public Private ACTION for Partnership!!

～SDGsで日本を元気に、世界を元気に
その主役はあなたです!～

時間	内容	
オープニング映像 (SDGsに関する映像)	ピコ太郎 × 外務省(SDGs)～PPAP～	『SDGs のうた』-未来人 feat. SDGs オールスターズ
		
	「持続可能な開発目標(SDGs)」(エマ・ワトソン) World * 日本語訳 日本ユニセフ協会	Small Smurfs, Big Goals – 「持続可能な開発目標(SDGs)」啓発キャンペーン【ソニー公式】
		
あいさつ	あいさつ・国際協力カレッジの説明	
10:00~ 10:10 (10分)	全体司会 名古屋NGOセンター 高野栄 ～SDGs映像の説明・進行内容について 開会の挨拶 JICA中部 市民参加協力課 駒崎麻里子氏 ～国際協力カレッジ、SDGs、JICA中部について	
1時間目	シンポジウム『4人の先輩に聞いてみよう～仕事としての“国際協力”的関わり方～』	



「国際協力カレッジ 2017」事業実施報告書

10:10～ 11:10(60 分)	<p>1時間目 シンポジウムスタート アイスブレーキング 「どんな人が、どこから参加している？」参加者同士で今日の期待と居住地域を話しあった後、コーディネーター・ゲストの松井氏が質問し、数名の参加者に発表してもらった。</p>	
	<p>ゲスト紹介&トークセッション</p> <p>ゲスト _____</p> <p> 鈴木知恵さん JICA 中部 研修業務課</p> <p>学生時代にフィリピンの孤児院を訪れたことがきっかけで国際協力に关心を持つ。その後、民間企業、オーストラリアでのワーキングホリデー、バックパッカー、青年海外協力隊(ケニア)、JICA静岡県国際協力推進員、JICAガーナ事務所駐在等を経て現職。現在、世界と中部地域を繋ぐ懸け橋として、開発途上国から来日する研修員の受入事業に従事している。</p>	
	<p> 前田 大蔵さん アフリカ工房</p> <p>学生時代にスタディツアード訪れたベトナムでの経験から、「途上」国の魅力にはまる。もつと「途上」国を知りたいと卒業後に青年海外協力隊に参加。バスケットボールコーチとしてアフリカのガーナに派遣される。帰国後、アフリカ工房を立ち上げ、ガーナよりフェアトレードで仕入れたシアバターの化粧品製造及び販売を行う。</p>	
	<p> 兼松 真梨子さん (特活) チェルノブイリ救援・中部 職員</p> <p>環境系NPOへの就職を希望したが、かなわず一般企業に就職。その後退職を機に、Nたま研修に参加したことがきっかけで、2011年に(特活) チェルノブイリ救援・中部に会計係として就職。ファンドレイジングなど資金調達にも挑戦。育休を経て現在7年目。会計事務のほか会員管理や広報など支援活動の運営を支える事務局業務を担う。</p>	
	<p>コーディネーター・ゲスト _____</p> <p> 河合 良太さん (特活) 泉京・垂井 事務局長</p> <p>雑貨販売や公共施設などで働いた後NGOスタッフ育成研修(Nたま)を受講しNGOやNPOのこと、また、高山市内のNPOでインターン実習をおこない中間支援やまちづくりについて学ぶ。地域づくりがしたいと思い、(特活) 泉京・垂井のスタッフとなる。地域と世界のつながりを感じながらフェアトレードの推進や地域づくりに取り組んでいる。</p>	



「国際協力カレッジ 2017」事業実施報告書

◆ゲスト/コーディネーターの自己紹介:

名前、所属、担当業務について、パワーポイントを用いて説明。

◆トークセッション:

引き続きパワーポイントや写真を使用して、ゲストとコーディネーターが現在のキャリアに至るまでの経緯やきっかけ、たいへんなこと、やりがいを話した。



<当日発表資料(抜粋)>

●鈴木さん

Life Journey ~日本で国際協力~

**日本でも海外でも
国際協力はできる！**

**企画・運営、調整能力を活かして
世界と中部地域を繋ぐJICA中部にて勤務**

●前田さん

私のLife Journey 青年海外協力隊

- 大会を企画運営 選手たちと共に
- 体育の授業で小学生に指導
- 直通空にて異文化交流
- ズオ村の村人たち

- ・青年海外協力隊に参加 バスケットボールコーチとしてガーナに派遣
- ・ズオ村＆シアバター＆前田眞澄（現在の妻）と出会う

●兼松さん

団体紹介・自己紹介

特定非営利活動法人
チャリティブリ救援・
中部 兼松真梨子

事務局でのお仕事

- 会計業務：
活動資金の管理
会員管理、資金調達、
予算作り、決算など
- 広報業務：
ホームページやブログ
等WEBサイトの管理、
広報企画、チラシ作り
など

1990年 チェルノブイリ原発事故（1986）を
きっかけに団体発足。被災地で必要な
医薬品や医療機器、粉ミルクなどを支援。
クリスマスには手作りのカードを
子どもたちに贈る。

2000年 NPO法人化。

2011年 福島原発事故の被災地支援をスタート。

対象地域：ウクライナ・ジトーミル州
福島県南相馬市

●河合さん

泉京・垂井（せんと・たるい）

「幸福度の高いまち・垂井」を目指し、垂井町を中心とした
西濃圏域、揖斐川流域での地域づくり活動を行っています。

自己紹介



休憩 11:10～11:20(10 分)	
2 時間目	テーマ別講座『気になるあの先輩に…インタビュータイム！』
11:20～ 12:20(60 分)	<p>◆インタビュータイム：</p> <p>インタビュータイムは、参加者が 1 時間目で興味を持った先輩の話をじっくり聞くことができるよう、ゲストを 2 名選び(25 分×2 回)、それぞれのゲストのいる部屋に分かれた。</p> <p>参加者がゲストを囲んで座り、参加者からの質問にゲストが答えた。</p> <p>◆以下、参加者からの質問内容と回答 (一部抜粋)</p> <p>● <u>河合良太さん(泉京・垂井)</u> *セミナールーム A1</p> <p>Q.なぜ垂井町でフェアトレードなのか？</p> <p>→A.日本も海外も同じ。地域から発信していくことが大切。</p> <p>Q.NGO スタッフになりたい人ためのコミュニティカレッジはどうだったか？年齢も気になる。</p> <p>→A.自分は N たまに参加して変わることができた。年齢も多様な人が参加しているので大丈夫。</p> <p>● <u>鈴木知恵さん(JICA 中部)</u> *セミナールーム A2・3</p> <p>Q.JICA、NGO、企業が行う支援活動の違いは？</p> <p>→A.JICA は ODA の実施機関。NGO は独自の活動を行っているが、JICA や外務省と連携することもある。企業はビジネスを通して途上国の生活向上に寄与している。</p> <p>Q.留学したときの話を教えて欲しい。</p> <p>→A.なるべく日本人がいない場所を選ぶように気をつけた。バイト先も日本人がいない所を探した。</p> <p>● <u>前田大蔵さん(アフリカ工房)</u> *セミナールーム C1</p> <p>Q.青年海外協力隊の体験談を教えてほしい。</p> <p>→A.バスケットを教えにいったが、ただ教えるだけではなく、大会を開くなど工夫をした。</p> <p>Q.ガーナの魅力について教えてほしい。</p> <p>→A.人が魅力。とてもフレンドリー、陽気、感情表現がとても豊かだった。</p> <p>● <u>兼松真梨子さん(チエルノブイリ救援・中部)</u> *セミナールーム B3・4</p>





	<p>Q.1 年勤務したら会計業務のどれくらいが身についたか？ →A.一通りの流れが分かり、大まかな業務が一人できるようになった。</p> <p>Q. 組織の収入源は何か。 →A.会費、寄付、助成金、補助金などを使って運営している。</p>	
--	--	--

休憩(12:20～13:30)(70分)

3時間目	「こんな人、うちに来て！～団体のアピールタイム～」
13:30～ 14:40 (70分)	<p>3時間目では、参加者に国際協力への一歩を踏み出すきっかけをつかんでもらえるよう、「ボランティア」と「インターン」の違いについて経験者からの話を聞く時間を設けた。</p> <p>また、4時間目のマッチング展に向けて、出展団体から各団体の活動内容や求めているボランティア等についてアピールをしてもらった。</p> <p>【司会進行】</p> <p>名古屋NGOセンター インターン 堀江愛里</p> <p>◆あいさつ・3時間目の流れ説明</p> <p>◆「ボランティアとインターンの違いって？」</p> <p>多様な関わり方がある国際協力。その中でも「ボランティア」と「インターン」とは何か、また両者の違いについて、経験者へのインタビューを通して参加者に理解してもらうことを目的とした。経験者として以下の二人に話して頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティア経験者／筒井広治さん～アイキヤンと日本国際飢餓対策機構(以下、JIFH)でボランティア。・インターン／平安名未聖さん～ホープインターナショナル開発機構(以下、ホープ)でインターン。 <p>＜インタビューの質問項目と答え＞</p> <p>Q1:どこで活動していたか？どのような活動をしていたか？</p> <p>→筒井：アイキヤン、JIFHでボランティア。ICAN毎月1回の街頭募金参加。</p> <p>→平安名：ホープでインターン。イベントを通して、団体の活動を紹介。</p> <p>Q2:どのぐらいの頻度で？</p> <p>→筒井：ICANは2～3か月に1度。JIFHはイベントに関わるときは1週間に数回事務所に通うことも。</p> <p>→平安名：大学生のため、火曜AMのみインターン。長期の休みのときは週2日。</p> <p>Q3:ボランティア、インターンを始めたきっかけは？</p> 



→筒井:ICAN、JIFHともにスタディツアーパートicipationがきっかけ。

→平安名:学校の授業でフィリピンへフィールドワークへ。ストリートチルドレンの孤児院でショックを受け、何かできることはできないかと探し、昨年このカレッジに参加してホープに関わるようになります。

Q4:交通費や給与など、手当は?

→筒井:ボランティアは無償。交通費もなし。

→平安名:同じく。

Q5:今までで一番嬉しかったことは?

→筒井:JIFHのイベントを地元で開いたとき、疎遠になっていた知り合いと会場で会った。すごくよかったです、よく分かったと言ってもらい、嬉しくなった。

→平安名:毎月開催ホープナイトでのアンケートで、楽しかった、勉強になった、また来たいと書いてあると嬉しくなる。やってよかったと思う。

Q6:大変だったことは?

→筒井:ボランティアでイベントを企画しても、団体の公式のイベントとなる。チラシの出来具合で団体のイメージが変わってしまうこともある。作ったものをスタッフに何度もメールでやりとりして確認してもらった。1人では数日でできると思ったが、結局数週間かかった。大変だった。

→平安名:学生ならではかもしれないが、業務が大変だと感じる。電話対応が苦手。HOPEでは英語でもかかってくる。カンペを用意して、必死で対応している。

Q7:ボランティアやインターンのいいところ

→筒井:仕事をしている人だと、どうしても難しいことがあると思う。自分の都合で出られるときだけ、内容も自分に合ったことだけ手伝うことができる。ボランティアの方が仕事が選べる。

→平安名:インターンは長期間関わることができ、業務をまかされたりする。インターン活動を通じて、国際協力とは何かを深く考えることができ、インターンしてよかったです。

<両者の違いについてまとめ／堀江>

ボランティア…自分の都合で活動に参加できる。いろんな団体に自分のペースで参加できる。仕事と両立できる。ボランティア後、インターンになる人もいる。

インターン…基本的に決まった時間に活動。交通費が出る場合がある。その団体について深く知ることができる。時間のある人、興味事に深く関わることができます。





◆団体アピールタイム:出展する国際協力分野の
15 団体による自己紹介

(活動内容、募集内容説明)

1 団体ずつ、活動紹介とどのような人を求めているかをプレゼンした。

1 団体につきアピールタイムは 3 分とした。

[出展団体→求めている人材]

【多文化共生・国際交流】

①P782 in Aichi→難民問題に興味を持っている人、一緒に勉強会を行ってくれる人



②(公財)名古屋国際センター

→災害語学ボランティア、イベントへの参加

【教育・子ども】

③(一財)日本国際飢餓対策機構→国際貢献、飢餓問題に関心のある人、

④(認定 NPO)アイキヤン／街頭募金参加者、イベント、スタッフ参加者

⑤(特活)ル・スリール・ジャポン→「自分たちならではのボランティア」と一緒に作ってくれる人

⑥(特活)キャンヘルプタイランド→若いエネルギーが必要！スタッフ、ワークキャンプ参加者

【環境・地域開発】

⑦(認定 NPO)ホープ・インターナショナル開発機構

→ホープナイト企画運営、ファンドレイジングイベント補助、事務作業

⑧(特活)イカオ・アコ→フェアトレード普及に関心のある人、ボランティア・インターン

◆シェアタイム

近くの人とペアまたは 3 人グループを作り、これまでのプレゼンで気になった団体、今日の参加の動機などを共有。

◆団体アピールタイム続き

【環境・地域開発】

⑨(特活)チェルノブイリ救援・中部

→会報発送作業、イベントスタッフおよび記録係、

広報、クリスマスカードキャンペーン



【フェアトレード】

⑩(特活)泉京・垂井→国内でのフェアトレードに関心のある人

【人権・平和・医療】

⑪(公財)アジア保健研修所(AHI)→国際研修インターン、SNS 等での活動内容発信

⑫セイブ・イラクチルドレン・名古屋→イラクに関心のある人

⑬アジア車いす交流センター(WAFCA)→スタッフ参加者

【JICA 青年海外協力隊&外務省 NGO 相談コーナー】

⑭JICA 青年海外協力隊相談コーナー→協力隊参加者



「国際協力カレッジ 2017」事業実施報告書

	<p>⑯外務省 NGO 相談員コーナー(名古屋 NGO センター→来年度のインターン)</p> <p>◆終わりのあいさつ・4 時間目の説明</p>
休憩 14:40～14:50 (10 分)	
4 時間目	国際協力ボランティア・インターンマッチング展 今日からスタート！国際協力、はじめの一歩
14:50～ 16:10 (80 分)	<p>◆各出展団体と参加者のマッチング展</p> <p>3 時間目の団体説明を受けて、マッチング展を行った。</p> <p>初めの 10 分は、各参加者は、名札の裏に書かれた番号のブースにて 10 分間話を聞いた。残りの時間はフリータイムとし、より詳しく話を聞きたい団体のブースにてボランティア内容の詳細や活動現場についてなど話を聞いた。</p>    



5 時間目 全体会・ふりかえり／あいさつ、アンケート記入	
16:10～ 16:10 ～16:40 (30 分)	<p>●ふりかえり</p> <p>コーディネーター:ココアゴラ代表 市野将行</p> <p>参加者に加え、出展団体も交えて2-3人程度でグループを作り、以下について話し合い、振り返りを行った。</p> <ul style="list-style-type: none">① 今日の感想② 今日のハイライト(国際協力について新しい発見・気づき)③ 今日から「できること」 <p>感想の全体共有の場面では、参加者から自発的に手が挙がった。岐阜県の高校1年生、静岡から新幹線に乗って参加した会社員、参加する前はボランティアには懐疑的だったという大学生など、様々。</p> <p>「国際協力にも様々な関わり方があることを知り、自分も一歩踏み出したい」、「今日帰ったら、早速ボランティアについて調べたい」、「ボランティアのイメージが(良い方向で)変わった」、「フェアトレードなどに取り組んでいきたい」、「小さなことから一歩一歩。世界を知るために行動したい」など、熱く意見を述べる参加者の声があがった。</p> 



	 	<p>閉会のあいさつ (特活)名古屋 NGO センター 事務局長 戸村 京子</p> <p>最後の振り返りで、特に若い参加者が生き生きと話して共有してくれたことがよかったです。人のぬくもりを通して社会に踏み出しあもらいたいと思う。国際協力はいきなり海外に行かなくてもいい。自分の探っている方向に1歩踏み出せばよい。今日の気持ちを温めながら過ごしてほしい。</p> <p>アンケート記入</p>
16:40～ 17:00 (20分)		

(注意)本報告書の掲載写真に関しては、特に参加者が特定できる写真の取り扱いにはご注意下さい。

2. 参加者アンケート結果

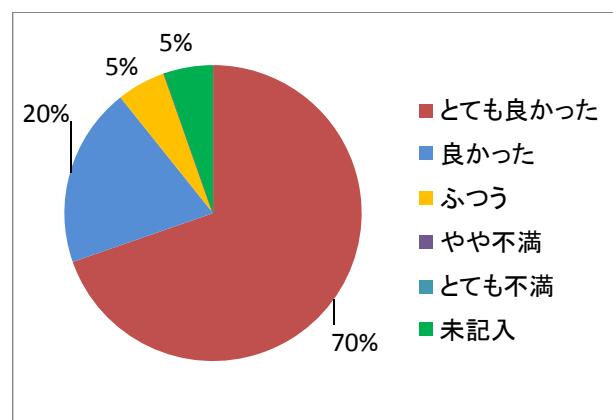
参加者・出展団体共にアンケートを配布し、回答を頂いたものを集計した結果である。

以下は、参加者によるアンケートの集計結果である。(参加者アンケート有効回答・回収率 40%)

問1 1時間目:シンポジウム「国際協力で働く」はいかがでしたか?

◆参加者の声(抜粋)

- 4人のゲストが今に至るまでの経験を聞くことができて、(始めるに)遅い早いは関係ないと思った。
- 鈴木さんの「日本でも海外でも国際協力できる」、前田さんの「かわいそうだからではなくアフリカの良さを伝えたいから」の言葉が印象的だった。
- お話を参考にさせていただき、次は自分事に考えていきたいと思った。
- 様々な立場の方からお話を聞けたのでよかったです。
- キャリアデザインをすることの必要性を感じた。



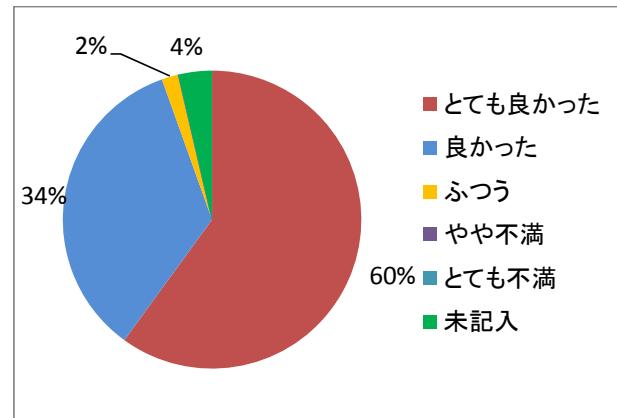


- 鈴木さんのキャリアアップの仕方が印象的で新しかったです。
- 多様な国際協力の関わり方を知ることができた
- 4人のゲストの方の思いを直接お聞きすることができた
- 積み重ねがあって、色々な経験を活かして今に至ったことを聞けてよかったです。
- 兼松さんの「苦労があってもそれで救えることがある」の言葉が心に響きました。
- 国際協力を考えたとき、これまで漠然としていたが、様々な団体の携わり方を知り、自分がどう携わっていけるか具体的にしていきたいと思った。

問2 2時間目:テーマ別講座:「気になるあの先輩に…インタビュータイム！」はいかがでしたか？

◆参加者の声(抜粋)

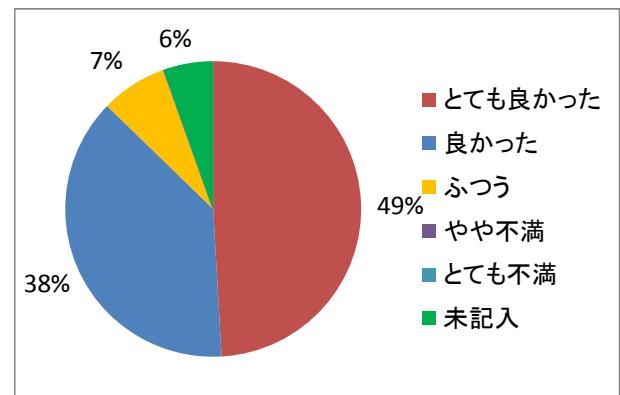
- 座談会の雰囲気で穏やかに聞きあえました。
- 質問を先に出すスタイルが会をスムーズに進めていた。
- 活動上での経験や日本との違いなど聞きたい情報が得られたため。
- 1時間目に聞いたお話をより深めて聞くことができたのよかったです。
- 質問に丁寧に答えて頂け、疑問点がクリアになった。
- 知りたい情報を直接聞けてよかったです。
- JICAのTOEICの点数に驚き、英語の必要性を感じた。
- 鈴木さんの「まずは現場を見ること」「興味がないではなく興味があることを探す」という言葉が印象に残った。
- ボランティアに関してのみならず、現代の私たちに求められている重要な事をも知ることができた。
- 前田さんの、週末大阪で学校に通っていたことからも、仕事をしながらできるんだと感じました。



問3 3・4時間目:「ボランティア・インターンマッチング展」はいかがでしたか？

◆参加者の声(抜粋)

- これまで向いていなかった分野に目を向けることができた。
- 色々な団体があり、なかでも自分もフェアトレードをする気持ちが湧いてきた。
- 各団体がボランティアなどを募集していることを知れてよかったです。
- もっと時間がほしいと思うくらい、魅力的なブースだった。
- こんなにたくさんの団体さんと一度に交流できる機会は貴重だと思うのでよかったです。
- 様々な団体のお話を聞けて、自分にできることを見つけることができた。
- それぞれの団体の特色を知る事ができてよかったです。
- 特に、案内人の方が色々おすすめしてくださいましたのでたくさんお話を聞けた。



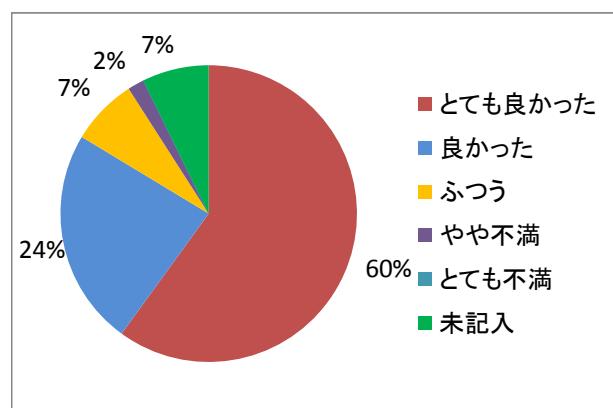


- ボランティアには多くの種類があったため、スタディツアーカーから参加していくのもいいかなと思った。

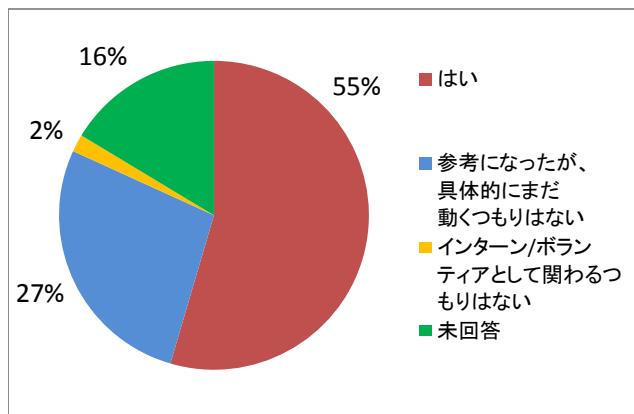
問4 地球案内人による「体験ゾーンツアー」はいかがでしたか？

◆参加者の声(抜粋)

- SDGs の概念を知ることができてよかったです。
- 貧困をなくすための JICA の取り組みが学べてよかったです。他にも、教育や子どもたちのためのプログラムが作られており素敵だなと思った。
- 今度ゆっくり見にきたい。これから世界に必要なことが要約された形で知れた。
- SDGs のお話を中心として色々体験できるようになっていて面白かった。
- 何を目標にやっていくか知れてよかったです。
- 自分の無知な点をたくさん学べた。
- 母子健康手帳は日本が発祥であることが印象に残った。
- 人数が分けられていた点がよかったです。



問5 実際にボランティアまたはインターンとして関わりたいと思う団体はありましたか



(具体的に挙げられていた団体名)

複数あり／青年海外協力隊(JICA 中部)

イカオ・アコ／キャンヘルプタイランド

泉京・垂井／セイブ・イラクチルドレン・名古屋

アイキャン／P782 in Aichi

(その理由)

- フェアトレードを使ってアクションをしていきたい
- 無理のない範囲で活動できそう。国際交流ができそう。
- 気軽に参加できそうなため
- 難民についてもう少し知りたいため
- 自分のニーズと合っていたため

◆「2.特定の団体はまだ見つかっていないが、今後の参考になった」と回答した人の理由

- やりたいことを見つけられたため。

◆「3.インターン/ボランティアとして関わるつもりはない」と回答した人の理由

未記入



3、出展団体アンケート結果（意見は抜粋）

出展団体に向けたアンケートを実施し、回答頂いた。出展団体のアンケート有効回答・回収率は 80%であり、以下は、その結果である。

問1 3時間目：「出展団体の紹介(3分間×15団体)」についての感想をお聞かせください

【感想】	<ul style="list-style-type: none">長すぎず、短すぎず、ちょうどよかったです。他の団体の様子を知ることができてよかったです。途中ブレイクタイムがあったのがよかったです。3分間あり、アピールタイムとしては適切な時間であったと思った。各団体さん、効果的にご紹介をされておりました。昨年は2分間スピーチで時間不足でしたが、今回は十分に時間がありよかったです。
【改善点】	<ul style="list-style-type: none">準備不足で上手に話せなかつた。

問2 4時間目「ボランティア・インターンマッチング展」についての感想をお聞かせください。

【感想】	<ul style="list-style-type: none">最後の振り返りで参加者と一緒にできたことで生の声を聞くことができてよかったです。多くの方が積極的に質問をしてくれ、自分たちの活動を振り返るいい場ともなりました。人が来て頂けるか心配でしたが、司会の方がアナウンスなどでバランスをとってくださいよかったです。充実した時間になった。沢山の方が興味をもってくださったので嬉しかった。
【改善点】	<ul style="list-style-type: none">参加者の半分が体験ゾーンツアーに行ってしまったため団体にとって空き時間があり、少しもったいなかったかなと思う。もう少し時間があるとよかったです。来るタイミングがばらばらなので、タイムマネージメントが難しかった。

問3 今回の「ボランティア・インターンマッチング展」では、実際にボランティアやインターンを希望する人はいましたか？

選択肢	回答数	1.と回答→人数は？
1.実際にボランティア・インターンを希望する人がいた	83%	各団体 1~13名 計 45名(平均 4.5名)
2.話は聞きにきたが、実際にボランティア・インターンをするかどうかわからぬ	17%	
3.話を聞きにくる人もいなかった	0	



問 4 過去に国際協力カレッジに参加した経験のある団体の方で、過去の「ボランティア・インターーン」マッチング展を通じて、実際にボランティアやインターーンをしていた、あるいは現在している人はいますか？

選択肢	回答数
1.現在、ボランティア・インターーンをしている人がいる	58%
2.過去にボランティア・インターーンをしていた人がいた	17%
3.(担当が変更したため)国際カレッジ経由の人かどうか把握していない。またはいない。	25%

問 5 次回以降の国際協力カレッジについて、アイディアや改善点などがございましたら、お聞かせください。

また今後、ボランティアやインターーンなどの人材を発掘・定着させるためのイベントや、研修などのアイディアがございましたら、お聞かせ下さい。

<感想>	<ul style="list-style-type: none">毎年、終了間近に生まれるワクワク感というか、カレッジから何か始まる感を創出されているのは素晴らしいなと思う。今回の参加者の様子から、国際協力分野に進みたい学生さん(勉強志向)と何かボランティアをしたいという社会人の人たちに二分されるように思いました。どちらのベクトルもカレッジで大切にしたいと思いますが、改めて2つのニーズを感じました。
<改善点>	<ul style="list-style-type: none">ブースの幅がもう少し余裕があると、途中からでもブースに聞きにきやすくなり、より多くの方にお話ができたかなと思った。案内時にチラシを1枚配った方が各団体のイメージ定着につながると思う。ブースに1度に数名の参加者が来ると説明しづらいかもしれない。1対1で話せる時間がもう少しあるうれしい。

4、アンケート結果の分析を踏まえた、本事業の目的・目標達成および今後に向けての提案

本事業の企画書において、達成目標およびその指標について、以下のように記載している。

(以下、企画書より抜粋)

到達目標 を測る指標	参加者および出展団体に対し、実施するアンケート結果が、以下の3点を満たしていること。 A、参加者が参加前と比較し、国際協力の必要性や課題に対する理解が深まったかどうか。
	<ol style="list-style-type: none">参加者によるアンケートのうち、1~2時間目(シンポジウム・テーマ別講座)について、「とても良かった」・「良かった」と回答した人が、回答者数全体の80%以上であること。B、参加者一人ひとりが、イベント後、具体的な行動に移すきっかけとなり得たかどうか。参加者によるアンケートのうち、「実際にボランティアまたはインターーンとして関わりたい、あるいはイベント等に参加したいと思う団体が見つかりましたか?」の質問に対し、「見つかった」と回答した参加者が、回答者数全体の50%以上であること。出展団体のうち「ボランティア・インターーンを希望する人がいた」「イベント等に参加してくれそうな人がいた」の合計数が、回答者数全体の50%以上であること。

●目標の指標を達成し、さらに「ボランティア・インターーン希望者をする人がいた」と答えた団体が83%

- アンケート結果によると、シンポジウムについて「とても良かった」、「良かった」と回答した参加者は合計100%、テーマ別講座については94%、ボランティア・インターーンマッチング展については88%となっており、非常に高い満足度を得ており、Aの指標については十分達成し、参加者の「国際協力の必要性や課題に対する理解が深まった」と言える。
- また、今回のイベントで、「インターーン・ボランティアとして関わりたいと思う団体が見つかった」という参加者は36%、「特定の団体はまだ見つかっていないが、今後の参考になった」という参加者は52%であり、合わせると88%の



回答者に対し、本イベントにおいて、具体的な行動に移すきっかけを提供できたといえる。

- さらに、出展団体アンケートにおいては、「ボランティア・インターン希望をする人がいた」という団体が 83%あり、B の目標をはるかに上回り、十分に本事業の目標を達成できたと考えられる。

●中学生や高校生等、参加者層が幅広く、新たな「無関心層」からのニーズも。

- 本事業の認知度は年々高まりを見せ、年代も中学生の親子連れ、高校生のグループ参加等が目立つようになり、一方、社会人や退職者など老若男女問わず、幅広い参加者層になっている。
- 必ずしも、国際協力に深い関心を持って参加する人たちばかりではなく、「将来的にかかわりたいので参考のために」「詳しくないけど、勇気を出して参加してみた」という入門よりさらに「超入門者」「無関心層」と呼べる人たちの層が増えたともいえる。よって、本事業の認知度向上と共に、無関心層を後押しできるほどに、広く一般に対し、敷居が下がっていることが考えられる。
- 今後は「超入門者」「無関心層」のニーズに合わせて、出展団体にもアプローチ方法の工夫を呼びかける必要がある。

●「SDGs体験ゾーン」と「ボランティア・インターンマッチング展」について

- 今回初めての試みであった「体験ゾーンツアー」では、「とても良かった」、「良かった」と回答した人が半数以上であった。参加者の意見として、「貧困をなくすための JICA の取り組みが学べてよかったです」、「SDGs のお話を中心として色々体験できるようになっていて面白かった」などが多く、「今度ゆっくり見にきたい」との意見からは参加者にとって世界の課題を身近に感じることができ、視野も広がる時間となったと考えられる。
- 一方で新たな課題としては、「ボランティア・インターンマッチング展」では、満足度が高かったものの、参加者・出展団体の双方より、「もう少し時間が欲しい」と書かれており、人数が多いブースについてはまとめてグループトークをするように呼びかける等の工夫が期待される。

● 事業全体についての提案

- 申込み数はほぼ定員通りだったが、当日のキャンセル率は 1 割程度であったが、当日申込み者もあり、差し引きして定員数を上回る参加者数となった。今後も無料イベントにありがちな、ドタキャン率を下げる対策を考えていいく必要がある。
- 当日申込者のほとんどは JICA 中部へ、ふらりと立ち寄った人々であったが、途中参加にも関わらず大きな手ごたえを感じて、今後のアクションを約束して帰路について複数の参加者と出会った。ただ出入りがしやすい雰囲気を作っている分、途中参加者が増えたが、途中退席者も発生し、アンケートの回収率を下げることにもつながってしまった。
- 当日 5 分前になんでも参加者の集まりが少々よくなかったと見受けられ、スムーズな進行を進めていくにあたっても参加者へメールでのやりとりの際には十分に開始時刻に間に合うように念を押す必要がある。
- 過去に参加者としてカレッジに参加し、今回は、出展団体としてプレゼンをするという、まさに本事業の成果ともいえる人たちが複数見受けられ、本事業の即効性の高さと、「市民」と「国際協力活動」を結ぶ「懸け橋」としての存在価値と認知度の高まりを、事業の前後を通じて感じることができる。今後も本事業が、中部地域における国際協力の裾野を広げる JICA 中部の恒例事業となることが、中部地域の市民や国際協力団体より望まれている。結果として、国際協力や JICA 中部への敷居を下げることにも貢献している。



●運営面・契約面において

- ・ 今回より、事務局業務として、当日資料の印刷、備品等の準備、司会進行、当日必要スタッフの増員(例年はJICAより3名、当日運営協力あり)、HP用の報告書の作成、概要報告書の作成などの新たな事務作業が発生したこと、またSDGsの新規企画に伴う調整業務も増加したこともあり、これまで以上に運営にかかる時間が増大し、予定業務時間を上回ってしまった。また、チラシの増刷・配布は広報面において非常に有効であり、好評ではあったが、部数が1.6倍になり、配送先が増えたことにより郵送費が増大し、予算を上回り、当団体の自己負担分が増大した。
- ・ 本事業の量・質を担保し、事業の成果を維持・向上するためには、事務局側に経験・ノウハウがあったとしても、関係者との調整や準備は丁寧に行う必要がある。また、当日の運営に欠かせないボランティア(設営、受付、案内人、司会、2時間目講師別ファシリテーター等)の募集やコーディネート、打ち合わせ等の業務も必要となる。たった1日のイベントのように見えるが、事前事後の参加者および出展団体のフォローアップも含め、これらのために見えない作業や多くの人たちの協力や時間の投入が本事業の成果の布石となっていることは、報告書や決算書には表現しきれないので、ここに記しておきたい。
- ・ 以上のことから、当団体としては、今回以上に契約金額を下げることは、本事業の質・量を下げ、実施目的の達成に影響が出る可能性がある、あるいは受託団体に負担がかかることを懸念している。

以上

*添付書類:出展団体リスト、当日参加者名簿、報告書記載の写真(CD-ROM)